第８項　友人の「性行為を伴わない援助交際」に対する姿勢

友人のお茶やデート、カラオケなどまでの援助交際をとめるかどうかという姿勢ににについて『身近な友達がお茶やデート、カラオケなどまでの援助交際をしていたら友達をとめると思う』と質問文を提示し「１＝とめない」「２＝あまりとめない」「３＝どちらでもない」「４＝ややそう思う」「５＝とてもそう思う」の５段階評定で回答を求めた。その結果、「とめない」と回答した者は6.4%、「あまりとめない」と回答した者は13.5%、「ややそう思う」「とてもそう思う」と回答した者はそれぞれ22.7%、33.3%であった(図2-3-8)。以上の結果から、ほとんどの者が、友達がお茶やデート、カラオケなどまでの援助交際をしていたらとめると考えていることが明らかになった。男女別の内訳をみると、男子では「とめない」と回答した者が10.8%、「あまりとめない」と回答した者が14.9%、「ややそう思う」「とてもそう思う」まで順に25.7%、20.3%であった。女子では「とめない」と回答した者は1.5%、「あまりとめない」と回答した者は11.9%、「ややそう思う」「とてもそう思う」まで順に19.4%、47.8%であった。以上の結果、女子も男子も共に、友人がお茶やデート、カラオケなどまでの援助交際をしていたらとめると考えていることが明らかになった。同時に男子は女子よりも、友人がお茶やデート、カラオケなどまでの援助交際をしていてもとめないと考えているものが多いことが明らかになった。

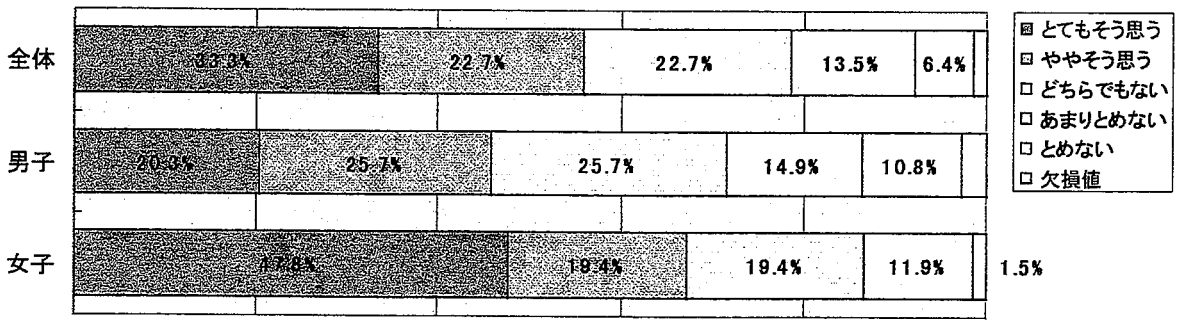

図2-3-8　友人の「性行為を伴わない援助交際」に対する姿勢

第９項　友人の「性行為を伴う援助交際」に対する姿勢

友人のキスやセックスなどの性的な行為を含む援助交際をとめるかどうかという姿勢ににについて『身近な友達がキスやセックスなどの性的な行為を含む援助交際をしていたら友達をとめると思う』と質問文を提示し「１＝とめない」「２＝あまりとめない」「３＝どちらでもない」「４＝ややそう思う」「５＝とてもそう思う」の５段階評定で回答を求めた。その結果、「とめない」と回答した者は4.3%、「あまりとめない」と回答した者は5.0%、「ややそう思う」「とてもそう思う」と回答した者はそれぞれ19.1%、55.3%であった(図2-3-9)。以上の結果から、多くの者が、友達がキスやセックスなどの性的な行為を含む援助交際をしていたらとめると考えていることが明らかになった。男女別の内訳をみると、男子では「とめない」と回答した者が6.8%、「あまりとめない」と回答した者が8.1%、「ややそう思う」「とてもそう思う」まで順に20.3%、40.5%であった。女子では「とめな

い」と回答した者は1.5%、「あまりとめない」と回答した者は1.5%、「ややそう思う」「とてもそう思う」まで順に17.9%、71.6%であった。以上の結果、女子も男子も共に、友人がキスやセックスなどの性的な行為を含む援助交際をしていたらとめると考えていることが明らかになった。同時に男子は女子よりも、友人がキスやセックスなどの性的な行為を含む援助交際をしていてもとめないと考えているものが多いことが明らかになった。

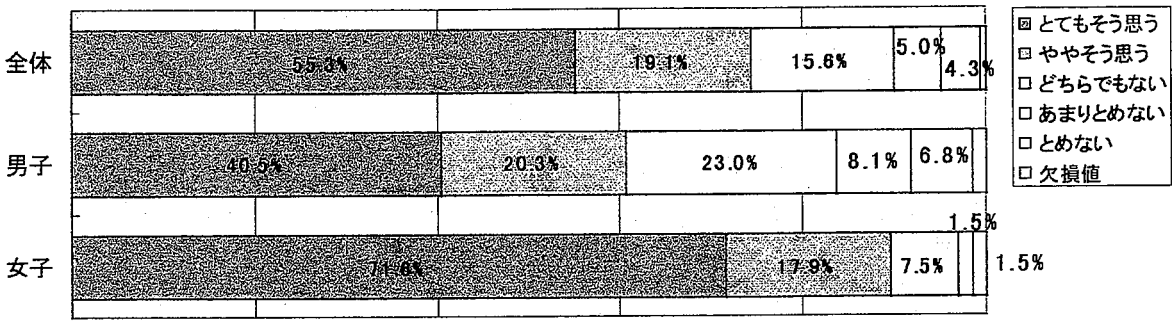

図2-3-9　友人の「性行為を伴う援助交際」に対する姿勢

第10項　友人の「性的行為の強要」に対する姿勢

友人の相手の意志に関係なく、性的行為を強要する行動をとめるかどうかという姿勢にについて『身近な友達が相手の意志に関係なく、性的行為を強要していたら友達をとめると思う』と質問文を提示し「１＝とめない」「２＝あまりとめない」「３＝どちらでもない」「４＝ややそう思う」「５＝とてもそう思う」の５段階評定で回答を求めた。その結果、「とめない」と回答した者はおらず、「あまりとめない」と回答した者は7.1%、「ややそう思う」「とてもそう思う」と回答した者はそれぞれ22.7%、66.0%であった(図2-3-10)。以上の結果から、ほとんどの者が、友達が相手の意志に関係なく、性的行為を強要していたらとめると考えていることが明らかになった。男女別の内訳をみると、男子では「あまりとめない」と回答した者が2.7%、「ややそう思う」「とてもそう思う」まで順に25.7%、62.2%であった。女子では「あまりとめない」と回答した者は1.5%、「ややそう思う」「とてもそう思う」まで順に19.4%、70.1%であった。以上の結果、女子も男子も共に、友人が相手の意志に関係なく、性的行為を強要していたらとめると考えていることが明らかになった。

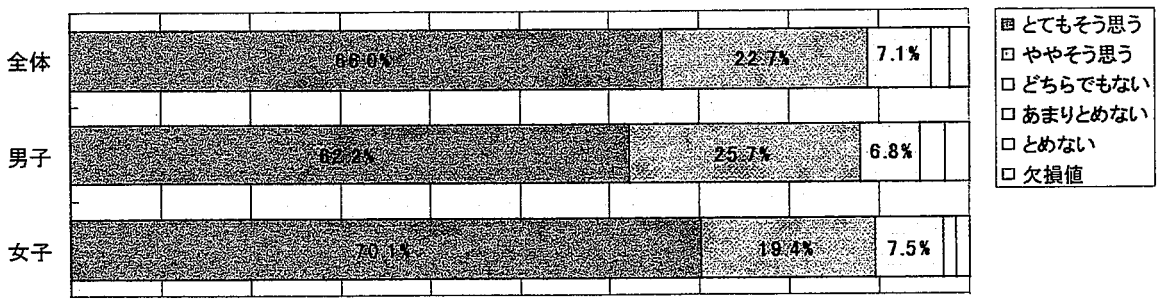

図2-3-10　友人の「性行為の強要」に対する姿勢

第４節　飲酒行動における実態と意識との関連について

第１節から第３節までは、問題行動に対する意識と実態について明らかにしてきた。本節では、とりわけ経験者数の多かった飲酒行動について、その実態と、個人的属性および道徳意識などとの関連をみていくことにする。

第１項　飲酒行動の実態と性別との関連について

飲酒行動の実態と性別との関連について、カイ二乗検定を行った。検定結果を表Ⅱ-1に示す。検定の結果、飲酒行動の実態は、性別による差は見られないことが明らかになった。

表Ⅱ-1　飲酒行動の実態と性別とのカイ二乗検定結果（単位は%）

	男子	女子
飲まない	37.9	62.1
飲む	56.3	43.8

第２項　飲酒行動の実態と飲酒行動の価値観との関連について

飲酒することがいけないことであるかどうかという価値観について、飲酒している人としたことがない人とで差がみられるかどうか母平均値の差の検定を行った。検定結果を表Ⅱ-2に示す。検定の結果、お酒を飲まない人の方が飲む人よりも、お酒を飲むことはいけないと考えていることが明らかになった。

表Ⅱ-2　飲酒行動の実態別にみた飲酒行動の価値観についての母平均値の差の検定結果

	人数	平均値	ＳＤ	検定結果
飲まない	30	3.10	1.21	t 値＝3.58***
飲む	112	2.33	1.00	df＝140

***P<.001

第３項　飲酒行動の実態と飲酒行動をする友人に対する姿勢との関連について

飲酒をしている友人に対する姿勢について、飲酒している人としていない人とで差がみられるかどうか母平均値の差の検定を行った。検定結果を表Ⅱ-3に示す。検定の結果、お酒を飲まない人の方が飲む人よりも、友人が飲酒しているときに止めると考えていることが明らかになった。

表Ⅱ-3　飲酒行動の実態別にみた友人に対する姿勢についての母平均値の差の検定結果

	人数	平均値	ＳＤ	検定結果
飲まない	30	2.53	1.16	t 値＝2.99**
飲む	112	1.89	1.01	df＝140

**P<.01

第５節　各種問題行動における被害状況について

前節までは各種問題行動について実際に行ったことがあるかどうかといった、主体的な経験に焦点をあてて検討してきた。本節では、各種問題行動について被害を受けたことがあるか、その被害状況についてみていくこととする。

各種問題行動の被害経験の有無について、それぞれ全体・男女別に示したものが図2-5である。各種問題行動は左から順に、「自転車やバイクを盗まれた」「お金や物を盗まれた」「性的行為を強要された」「理由もなく他人から暴力をふるわれた」「援助交際をもちかけられた」「脅されてお金や物をとられた」である。

男女ともに被害経験率が高かったのは、「お金や物を盗まれた」(男子46.6%、女子40.3%)であった。その他の問題行動における被害経験率では男女差がみられ、「自転車やバイクを盗まれた」(男子47.9%、女子19.4%)、「理由もなく他人から暴力をふるわれた」(男子23.3%、7.5%)、「脅されてお金や物をとられた」(男子19.2%、女子0%)では、男子の方が女子よりも経験率が高くなっている。その他の「援助交際をもちかけられた」および「性的行為を強要された」といった性にかかわる被害経験では女子の方が経験率が高くなっている。「援助交際をもちかけられた」(男子1.4%、女子9.0%)において女子の方が男子より経験率が高くなっているのは、元来「援助交際」が近年の女子中高校生において問題とされている行動であるためと考えられる。また同様に「性的行為を強要された」(男子0%、女子4.5%) でも女子の方が経験率が高くなっている。一般的に性的な被害は女性が受けるものといった先入観や現実の傾向があるが、これらの結果ははからずもその指摘通りのものとなっている。しかし、「援助交際をもちかけられた」でみられたように男性の場合でも被害経験が皆無というわけではないことは特筆すべき点であろう。とりわけ「援助交際」においては、もう一方の担い手は主として成人であるため、大人の性的モラル低下が危惧される結果であるともいえる。

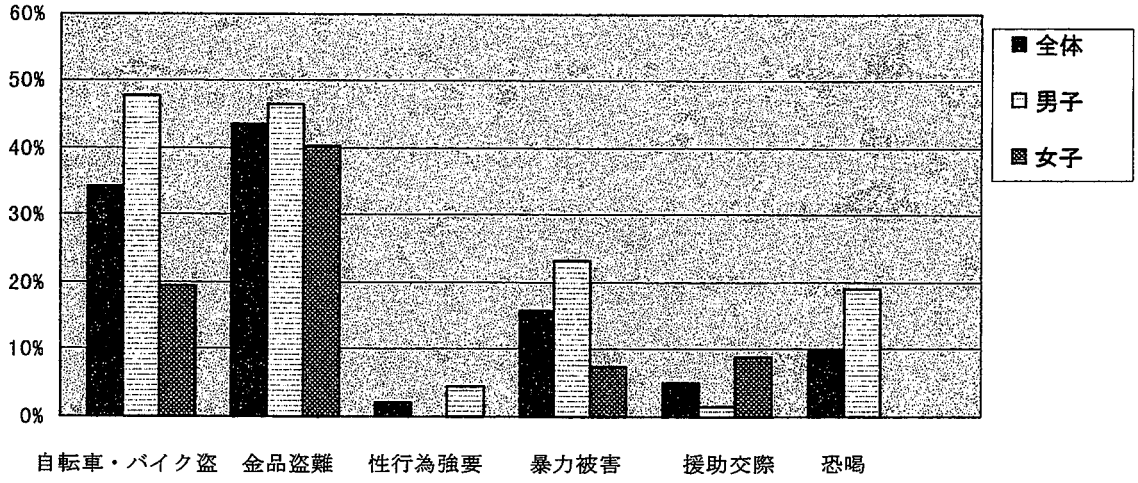

図2-5　各種問題行動における被害経験の有無

第６節　「非行」に対するイメージについて

高校生自身が思う「非行」と、大人社会での「非行」は果たして一致するものなのかどうか。本節では、非行・問題行動に対する高校生と社会との意識のずれについて検討していく。

第１項　不良少年・非行少年のイメージなどについての自由記述結果

自分自身を不良少年・非行少年だと思うかどうか、また不良少年や非行少年に対するイメージについて自由に回答を求めた。その結果を以下の点からまとめる。

１．自分自身を非行少年・不良少年だと思うかについて

自分自身を非行少年・不良少年と思っているかについて尋ねた結果、ほとんどの人がそうは思っていないことが明らかになった。しかし少数ではあるが、『親と意見が合わなかったり考え方が違うだけで、親は私のことを否定して不良だと言う』『中学の時はそうだったと思う』など、親と意見が違うことを不良と言われたと感じていたり、中学時代はそうだったと振り返っている人もいた。

２．不良少年・非行少年に対するイメージについて

不良少年・非行少年に対して、どのようなイメージを抱いているかについて尋ねた。不良少年・非行少年に対するイメージと、それらに対する意見・態度とに分類してまとめる。

不良少年・非行少年に対するイメージは、『怖い人が多い』『格好悪い』など否定的な拒否的なイメージと、『その人なりの考え方があるのではないか』『何か足りないものを求めている』などの理解可能で肯定的なイメージに分類された。主な回答内容を表Ⅱ-7に示す。

表Ⅱ-7　不良少年・非行少年に対するイメージについての回答内容

イメージ	・何でもやってそう ・怖い人が多い ・何も考えていない ・本当は良い奴 ・格好悪い ・いけないとは思うが、それなりの理由があるのではないか ・その人なりの考え方があるのではないか ・普通の人よりは自分の考えを持っている ・何か足りないものを求めている ・とまることができない
意見・態度	・会いたくない ・近づけない ・関わりたくない ・腹が立つ ・バカで情けなく悲しくなる ・社会をなめきっている ・他人に迷惑がかかるので困る ・悪い ・自分勝手 ・分かり合いたい ・かわいそう ・救ってあげたい ・付き合い方によってはとても楽しい奴ら ・やりたいことをやっているから別に良い ・幸せだったらそっちの道に走らないはず。怖いけど同情する ・非行をしているから駄目な人であるとか悪い人であるということはない ・他人に迷惑をかけなければいい ・身近にいても普通につき合える

3．不良や非行に走る人の特徴について

不良と呼ばれる人や、非行に走る人の特徴について回答を求めた結果、①具体的な行動内容、②外見の特徴、③心理的特徴の３点から理解されていた。

不良や非行だと考える具体的行動には、飲酒や喫煙などの行動から、薬物使用や援助交際などの犯罪行為までが含まれている。

外見については、茶髪やピアスなどをしていると不良や非行だと考えている人と、外見は関係ないと考えている人に分類される。

心理的特徴については、『自分がしたことに無責任』『良いことと悪いことの区別がつ

かない』など「倫理観のなさ」と、『虚勢をはっている』『さみしがりや』など「心理的な弱さ」とが挙げられた。主な回答内容を、表Ⅱ-8に示す。

表Ⅱ-8　不良や非行に走る人の特徴についての回答内容

具体的な行動内容	・ドラッグ・シンナー ・タバコ ・盗み、万引き ・夜行性 ・バイクで暴走する ・家に帰らない ・暴力的 ・人を脅す ・犯罪を犯す ・薬物や援交とか自分を傷つける行為をする人 ・酒を飲む ・脅して金をとる ・仲間を引き連れている ・暴走族
外見的特徴	・男→ロンゲに金髪、女→ケバイ人 ・外見ではない（髪、スカート、ルーズソックス） ・髪を染めることは自己主張であって、不良ではない ・茶髪 ・ピアス
心理的特徴	・自分がしたことに無責任 ・後悔する心がない ・気分で人を殴る ・虚勢をはっている ・だらしない ・自分で努力をしない ・軽率で深く考えない ・自制心がない（自分の欲求を制御できない） ・人のことを考えない ・まわりの人にひどいことや悲しい思いをさせる ・行動の結果を考えずに行動する ・一人で行動できない ・自分の目標をもたず、ダラダラしている ・心貧しい人 ・弱い人 ・自分のやりたいことがなくて、ただ他人と同じことをやることで安心を得ている

	・真面目にするのがまるで恥ずかしい感じ ・さみしがりや ・誰にも気づいてもらえない自分の存在を非行によってアピールしている ・幼稚な精神の持ち主 ・やって良いことと悪いことの区別がつかない ・忍耐力がない ・心の中は繊細 ・人が傷つくのが気にならない ・一人で行動できず、周囲の人と関わりが持てない

4．不良や非行にはしる原因について

不良や非行と呼ばれる行動にはしってしまう原因は、家庭環境に関するもの、本人の問題（内面的問題）、社会的な問題の３点に分類された。主な回答内容を表Ⅱ-9に示す。

家庭環境については、親の不仲や家庭の複雑な関係など、安心できない家庭環境が影響していると考えている。

本人の問題については、『周りの人に相手にされない』などの対人関係の問題と、『自分を守ろうとしているだけ』などの自己愛的な問題が挙げられた。

社会的問題については、不良や非行少年の責任は大人社会にあると考え、さらに援助交際を求める大人に責任があると考えている。

表Ⅱ-9　不良や非行と呼ばれる行動にはしる原因について

家庭環境	・親の不仲 ・家庭的に恵まれていない ・家庭が複雑 ・親に愛されていない
本人の問題	・人間関係がうまくいかない ・周りの人に相手にされていない ・心が傷ついて、耐えることができなくなった。自分を守ろうとしているだけ ・落ちこぼれだから ・自分が甘えているだけ ・自分の行動に責任を負いきれないのに、まるで自分は大人と同じことをして良いように思う人が非行に走る
社会的問題	・不良を更生させるのは大人の仕事 ・援助交際をしてほしい大人のせい ・過激に報道する大人のせい ・まわりの人の責任 ・大人社会の責任 ・周りに本当に心配する人がいない ・すごく頭が良くて社会に反発している